

# 日本語と中国語の 「金銭」に関する諺に見られる比喻表現

銭 清

## 1. はじめに

日常生活から生まれ、民衆の知恵の結晶として使われてきた諺は、各民族それぞれの伝統的文化の特色、民族性を反映している。そして、そこに使用されている表現や単語（素材）自体も、また、その言語民族の民族性あるいは文化、風俗の一面を反映している。

諺は「比喻」の下で成り立っている代表的なもので、そこには古くから人々が依りどころにしたり親しんできたと思われる事物（素材）が比喻の対象によく使われている。以前（拙稿：2008<sup>1</sup>, 2009<sup>2</sup>）、日中の「金銭」に関する諺の意味内容を中心に述べたが、諺に使用されている素材を対照比較してみるだけでも、興味ある特徴を指摘することができる。「金銭」に関する諺を組み立てている比喻の素材を考察することは、日本と中国の風俗、文化、民衆の考え方などの特徴を見出すことのできる方法の一つとも考えられる。

そこで、本稿では、私たちの生活に深く関わっている「金銭」に関する日中両言語の諺を組み立てている比喻の素材を対照比較考察してみる。そして、そこに見られる日本と中国の風俗、文化、民衆の考え方などの特徴を論じてみたい。

## 2. 分析資料と分析方法

本稿の対象として取り扱うのは、日中両言語における「金銭」に関する諺に現れる比喻表現である。日本の諺の用例は『故事俗信諺大辞典』（小学館 1982）を資料母体とする。『故事俗信諺大辞典』はいろいろな由来を持つ諺や俗説など約 43,000 項目が収められている。専門辞典としてこれまで見られない規模となっている。一方、中国の諺は、『中国諺語大全』（温 2004）及び『諺語大典』（張 2004）の資料を中心に、諺の用例を取り出した。『中国諺語大全』は、約 100,000 項目の諺を収録している。また『諺語大典』は、46 テーマ、308 項目に細かく分類され、中国語の諺への理解もいっそう深まるように作られている。

分析方法としては、上述の諺辞典から「金銭」に関する諺に現れる比喻表現を取り上げ、それらがどのように使用されているか、類似点と相違点を考察し、そのような類似点と相違点の基になるそれぞれの国民性とか民衆の風俗、慣習をも考察する。

表 1 比喻表現が見られる諺数

区分	金銭関係の諺計 <sup>3</sup>	比喩表現が見られる諺計
日本の諺	109	26
中国の諺	137	25

### 3. 比喩の素材とその意味内容

「金銭」に関する諺に用いられている種々の比喩素材は、その形によって、動植物、衣食住、その他の三つに大別して考えることにする。

下記の表2は、「金銭」に関する諺の比喩の素材とその意味内容をまとめたものである。

表2 比喩の素材とその意味内容

日本語			中国語			
素材別	各素材が表す意味合いの特徴	諺用例	素材別	各素材が表す意味合いの特徴	諺用例	
動植物	木 種	実がなる 物事の発生するもと	・辛抱する木に金が生じる ・借金は苦の種	芝麻	細かい物	・拾芝麻湊斗（ごまを拾って一斗升となす）
	鳥 動物	自由に飛べる、落ちない	・金さえあれば飛ぶ鳥も落ちる	龙 虫 王八	神霊視される鱗虫の長、天子になぞらえる嫌われる昆虫 軽蔑される動物、すっぽん	・有钱一条龙、没钱一条虫（金があれば一匹の龍、金がなければ一匹の虫） ・有钱的王八 <sup>3</sup> 是大爷（金があればすっぽんでも旦那様だ）
衣食住	飲食物 毒薬	命の危険を誘発するもの	・金銭は徳義の毒薬	餌	動物を誘い出して捕らえるための物	・钱是贪夫饵、徘徊自上钩（金は欲張りには餌だ、ふらふら食いつく）
	住居					
	小判	価値がある	・一文銭も小判	雪	湯をかける	・不义之财如汤泼

その 他	物 体	千金	大金	の端		と溶ける	雪（不義の財は湯を雪にかけるようなもの）
		一文	わずかの金	・千金は一文銭の集まり	登山	登る時苦労する	・拵来如登山、用时如下滩（金を稼ぐのは山を登るよう
		百貫	大金	・一文から百貫目	下滩	入る時楽、体力が不要	で、金を使う時は砂浜に入るよう）
		宝物	価値がある	・金は町人の宝物			・珍珠藏到变到老鼠屎（真珠を使わずに隠して、結局ねずみの糞となる）
		帆なき舟	航行できずにただ流れて漂っている	・銭なき男は帆なき舟の如し	珍珠	価値がある 価値がない	・拿着银碗讨饭吃（银碗を持っているのに、乞食をする）
		雨	傘をさす対象であり、避けるべきもの	・借りのある門では雨が横になる	老鼠屎		・赚钱犹如针挑土、用钱犹如水推沙（金を稼ぐのは針で土を掘るようで、金を使う時は水で砂を押し流すよう）
					银碗	価値がある 高価な容器	
					土沙	細かい 押し流されやすい	
					粪土千金	価値がない 大金	
					宝	価値がある	・钱是死宝、人是活宝（金は死んだ宝、人は生きた宝）
			土	どこでもあ る物、価値	・挥金如土、用钱如水（土のように		

				水	がない	金をばらまき、湯水のように金を使う)
				刀口	たくさんある物 薄く鋭くしてある部分	・钱花在刀口上(銭金は肝心な所に使う)
				縄	物を束ねるのに使う	・債是一根无头绳, 解不开它捆死人 (借金はもつれた糸で、解かないと死ぬほど縛られてしまう)
				鸡毛	細かい物	・捡鸡毛凑掸子(鳥の羽を集めればはたきが作れる)
人物	親	肉親の大切さ	・金は命の親、命の敵	爷	旦那、尊敬される人	・钱是爷、钱是娘、一天没钱急得慌
	敵	共存しえない存在		娘	肉親の大切さ	(金は旦那や母親と同じで、一日でもないと慌てふためく)
	旦那	尊敬される人	・金さえやれば行き先で旦那			
	阿弥陀	衆生救済ができる仏	・金の光は阿弥陀ほど	爹娘	肉親の大切さ	・有钱是爹娘、无钱死路旁(金があると親になる、金がないと野垂れ死にする)
	石仏	衆生救済ができる仏	・銭ある時は石仏も頭を返す			
	木仏	衆生救済ができる仏	・銭あれば木仏も面を和らぐ	神	宗教において、世界や人間の在り方を支配する最高存在	・钱能通神(銭よく神に通ず)
	主人	大切な人	・銭一文を主親の如く思え			
	馬鹿	愚かな人	・金の光で馬鹿も利口に見える	诸葛亮 活神仙	知恵者 神様	・有钱就是诸葛亮 4、有钱就是活神仙 (金があれば諸葛

						亮、金があれば生ける神) ・瞎子见钱也眼开 (金を見ると盲人まで目を開ける) ・手里无钱活死人 (手元に金がないのは、生ける屍) ・无钱是路人 (金がなければ赤の他人) ・钱是奴才、用了还来 (金は召使、働かせたらまた来る)
				瞎子 死人 路人 奴才	一生目を開けることができない 何もできない死んだ人 見知らぬ人、よそよそしい 他人の支配下に屈する	
抽象物	鬼	恐ろしい妖怪	・ 銭ある時は鬼をも使う	鬼	恐ろしい妖怪	・ 有钱能使鬼推磨 (金があれば、鬼に引き臼を引かせることができる)
	地獄の沙汰	恐ろしい裁き	・ 地獄の沙汰も金次第	(千里)	遠い所まで	・ 有钱千里通、无钱隔壁聒 (金があれば、千里の遠い所でも知ることができ、金がなければ、壁一つ隔てた隣の様子も知ることができない)
	七光り	余光が広く遠く及ぶ	・ 金の光は七光り	通	知ることが	
	極楽	安楽で何の心配もない場所や境遇	・ 金のある間が極楽	(隔壁)	たとえ近く	
	恵比寿の紙	金運をもたらす神様	・ 出雲の神より恵比須の紙	聒	ても何も聞こえない	
	地獄の家苞	何も役立たないもの	・ 財宝は地獄の家苞			
	地藏顔	にこやかな顔つき	・ 借りる時の地藏顔、返す時の			
	閻魔	怒りの相	閻魔顔			

		顔 憂い	心配が長続 きする	・金を借りるは 憂いを借りる			
--	--	---------	--------------	-------------------	--	--	--

上記の表1に現れている素材は、庶民の生活の身近なところでよく知られているものがほとんどである。これらの素材の多くは該当する属性及び特徴にたとえる形として用いられている。動植物、衣食住以外の項目に見られる形態は、おおむね物体、人物、抽象物を表す素材となっている。

### 3.1 同じ素材の見られる諺

#### 3.1.1 素材は同じ、意味内容も共通点がある

- ・(日) 金は命の親、命の敵
- ・(中) 有钱是爹娘、无钱死路旁（金があると親になる、金がないと野垂れ死にする）

両者が全く同一の事柄を表しているとは言えないが、相通じるものがあるようである。日本語の諺は金のために命を救われることもあれば、金のために命を落とすほどの苦を味わうこともあるという見解を述べている。中国語の諺では、金の有無は社会的地位、人の生死まで変えてしまう魔力を持つということを言っている。つまり金は生計と深く関わり、人を生かすことも、殺すこともできることが表されている。

- ・(日) 金さえやれば行き先で旦那
- ・(中) 钱是爷、钱是娘、一天没钱急得慌（金は旦那や母親と同じで、一日でもないと慌てふためく）

以上の諺は「旦那」と「爷」が使用されており、このような素材の使用も面白い。「旦那」とは寺にお布施を出してくれる人（檀那）であった。商家などでは、雇い人から見て主人が旦那であるが、これも金（給料）を出してくれる人である。妻から見て金を出して養ってくれる夫も旦那、商売人から見て金を払って買ってくれる男の客が旦那である。要するに金を出してくれる男性が旦那にほかならないわけで、この日本語の諺はまさしく「旦那」の正しい定義となっているのである。中国語の素材の「爷」については、本来「おじいさん」に対する呼び方であったが、そこから派生して「権力・財力を持つ男性に対する敬称」の意味にも用いられる。このように誰でも欲しがらる金だから、これさえ持っていれば、「旦那々々」、「爷」と尊敬され、持ち上げられるようになる。「旦那々々」、「爷」と言われるのは人の人柄のためではなく、持っている金が言わせているのだということである。このように、金銭の有無によって社会的地位も変化することを強調している。

- ・(日) 銭ある時は鬼をも使う
- ・(中) 有钱能使鬼推磨（金があれば、鬼に引き臼を引かせることができる）

両者は意味的に相通じているところがある。金があれば、どんなものでも、相手がたとえ鬼であろうとも使役することができる。金銭は人を思うままに動かすことができるとい

うことを表している。違いは、中国語の「鬼」と日本語の「鬼」の意味である。中国の「鬼」は生きている人に様々害を与える可能性のある恐ろしい者で、日本語で言えば、亡霊、幽霊である。日本語の「鬼」は、亡霊や幽霊というよりは妖怪、怪物、化け物の類であり、お祭りに踊るなど、どこか可愛らしさを感じるものもある。

その他、以下のような諺も挙げられる。ここでは、紙面の都合上、分析を省略する。

- ・ 銭ある時は石仏も頭を返す / ・ 銭あれば木仏も面を和らぐ / ・ 銭能通神 (銭よく神に通ず)

### 3.1.2 素材は同じ、意味内容は異なる

- ・ (日) 金は町人の宝物
- ・ (中) 銭是死宝、人是活宝 (金は死んだ宝、人は生きた宝)

「宝」は両国共通に見られる比喩の素材として捉えられるが、日本語の諺の場合は、宝物は価値があるという特徴から、武士にとって刀と槍が宝であるように、町人にとって金銭こそ何ものにもかえがたい宝物であることを強調している。一方、中国語の諺の場合は2句ともに対句形式で、死んだ宝と生きた宝の比較によって、命の大切さを示している。

## 3.2 異なる素材の見られる諺

### 3.2.1 素材は異なる、意味内容は同じ

- ・ (日) 銭一文を主親の如く思え
- ・ (中) 銭花在刀口上 (金銭は肝心なところに使う)

両者はいずれも慎んでお金を有効に使うということを示しているが、日本語の諺に見られる「主親」は、貴重な物の比喩として、よく使用されているようである。このように、金を自分の主人や親のように思い、一文でもおろそかにしてはならないことを表している。一方、中国語の諺では、同じことの比喩において、異なる素材を使用している。「刀口」は「刃」で、切ったり削ったりするために薄く鋭くされるという特徴から、金は肝心なところに使わなければならないことを表している。以上の諺は、金はあると思っても使えばすぐなくなるものだから、惜しみ惜しみ大事に使い、常に儉約を心がけようということを強調している。

- ・ (日) 一文銭小判の端 / ・ 千金は一文銭の集まり / ・ 一文から百貫目
- ・ (中) 拾芝麻湊斗 (ごまを拾って一斗升となす) / ・ 捡鸡毛湊掸子 (鳥の羽を集めればはたきが作れる)

「一文銭」、「一文」は昔の通貨の再下位の単位で、千枚で一貫となる。「小判」、「百貫」、「千金」いずれも大金の比喩であるのに対し、「ごま」、「鳥の羽」などは庶民の生活において身近なものである。何万粒かのごまを集めれば一斗升分になる。一本のはたきを作るには、何百本かの鳥の羽を使う。日中ともにわずかずつでも、こつこつと貯めていけば、いずれは莫大な金額になることを表している。日本語の「一文銭」、「一文」と中国語の「ご

ま)、「鳥の羽」といった素材は、表現から受ける印象も異なり、ぴたりとは一致しないが、相通じるものがある。それぞれの諺からこつこつと節約している人間の姿が思い浮かぶ。

### 3.2.2 素材は異なる、意味内容は共通点がある

- ・(日) 借金は苦の種 / 金を借りるは憂いを借りる
- ・(中) 債は一根无头绳, 解不开它捆死人 (借金はもつれた糸で、解かないと死ぬほど縛られてしまう)

ここでも、素材の違いと表現の仕方の違いが面白い。「種」、「憂い」、「绳」といった素材において、全く違うように見えるが、内容的には共通点があるようである。金を貸す者と借りる者との間では、もちろん、借りるほうが弱い立場に立つのが普通である。貸してくれる者に対しては、頭はあがらないし、返せない場合には顔向けもできない。日本語の諺では、借金をすると金に束縛され、債権者の奴隷になり、苦勞の種になり、また金を借りるとその金を容易に返済することができず、心配事を借りたのと同じだというようなことを強調しているのに対して、中国語の諺は漸層法的な表現を用い、返済できないと、「死ぬほど縛られてしまう」という表現によって、借金の怖さを表現している。借金の怖さに対する気持ちは、両国民の考え方に差はないようである。

- ・(日) 金に糸目をつけぬ
- ・(中) 挥金如土、用钱如水

日本語の諺の「糸目」とは、あげた風のバランスをとるために表面につける数本の糸のことである。糸目をつけていない風は制御できないため、風に任せて飛んでいってしまうという性質に基づき、糸目をつけていない風に掛け、制限なくお金を使うことを表す比喩の素材として生かされている。一方、中国語では、よく「金などを湯や水を使うように惜しげもなく使う」ことを「用钱如水(湯水のように使う)」で表現している。たくさんある物の水のように、金銭などをあるに任せて乱費することのたとえである。

- ・(日) 金のないは首のないより劣る
- ・(中) 手里无钱活死人 (手元に金がないのは、生ける屍)

日本語の諺が金がないのは首のないことよりつらいという対照的な比喩表現を用い、金がないくらいなら死んだほうがまし、金銭がないことの苦痛を示唆している。一方中国語の諺はストレートに金がない時の辛さを表現している。

以上のように、使用されている素材は異なっても、内容的には相通じるものがあるようである。

### 3.3 意味内容による分類

「金銭」に関する諺に見られる比喩表現を大雑把に分けて見ると、金の力を表わすものと金の使い方を表わすものが多く含まれている。下記の表3から見る事ができる。



表3 意味内容による分類

言語別 分類	日本語の諺	中国語の諺
金の力 を表わす諺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金は命の親、命の敵</li> <li>・金は町人の宝物</li> <li>・金銭は徳義の毒薬</li> <li>・金さえあれば行き先で旦那</li> <li>・金さえやれば飛ぶ鳥も落ちる</li> <li>・金の光で馬鹿も利口に見える</li> <li>・銭ある時は石仏も頭を返す</li> <li>・銭あれば木仏も面を和らぐ</li> <li>・銭ある時は鬼をも使う</li> <li>・地獄の沙汰も金次第</li> <li>・金の光は阿弥陀ほど</li> <li>・金の光は七光り</li> <li>・出雲の神より恵比須の紙</li> <li>・銭なき男は帆なき舟の如し</li> <li>・金のないは首のないより劣る</li> <li>・金のある間が極楽</li> <li>・財宝は地獄の家苞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有钱是爹娘、无钱死路旁</li> <li>・有钱的王八是大爷</li> <li>・钱是爷、钱是娘、一天没钱急得慌</li> <li>・有钱就是诸葛亮、有钱就是活神仙</li> <li>・钱能通神</li> <li>・有钱能使鬼推磨</li> <li>・有钱千里通、无钱隔壁聋</li> <li>・瞎子见钱也眼开</li> <li>・钱是死宝、人是活宝</li> <li>・有钱一条龙、没钱一条虫</li> <li>・手里无钱活死人</li> <li>・无钱是路人</li> <li>・钱是贪夫饵、徘徊自上钩</li> </ul>
金の貯め方 を表わす諺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一文銭も小判の端</li> <li>・千金は一文銭の集まり</li> <li>・一文から百貫目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拾芝麻凑斗</li> <li>・捡鸡毛凑掸子</li> </ul>
金の儲け方 を表わす諺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辛抱する木に金が生じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不义之财如汤泼雪</li> <li>・赚钱犹如针挑土、用钱犹如水推沙</li> <li>・挣来如登山、用时如下滩</li> </ul>
金の使い方 を表わす諺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金に糸目をつけぬ</li> <li>・銭一文を主親の如く思え</li> <li>・借金は苦の種</li> <li>・借りる時の地藏顔、返す時の閻魔顔</li> <li>・金を借りるは憂いを借りる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挥金如土、用钱如水</li> <li>・钱花在刀口上</li> <li>・债是一根无头绳、解不开它捆死人</li> <li>・钱是奴才、用了还来</li> <li>・珍珠藏到变到老鼠屎</li> <li>・拿着银碗讨饭吃</li> <li>・钱财如粪土、仁义值千金</li> </ul>

このように比喻表現が使用された諺の中では、「金の力」を表す諺は、両国の諺の数はそれほど差が見られないが、日本語が金の力をストレートに表現しているのと異なり、中国

語の場合は逆に金がない時の考え方も数多く見受けられる。これらの諺の中には対句形式を用いて表現するものもあり、面白く感じる。

#### 4. おわりに

今回の資料では完璧とは言えないが、相当の比喩表現を検討することができた。その結果、次のような結論が得られた。

素材の全体をみると、庶民の生活の身近なところでよく知られているものが多く見られる。これらの素材の多くは、該当する属性及び特徴故にたとえとして用いられている。住居に関する素材を使用している比喩表現は一つもなかった。意味内容からみると、「金の力」を表わすもの及び「金と方法」を表わすものが多く含まれている。

同じ比喩素材がそれぞれ日中両言語で特徴のある比喩形式で、異なった内容を表すのに使われている。また、同様な内容を表現するのに両言語に共通の素材を用いていない場合も見られる。逆に使用されている素材は異なっても、内容的には相通じる諺があるようである。それはその素材とそれを取りまく自然環境や風俗・慣習に違いがあるからであり、そのような違いの中に、また、両国民の言語感覚、文学の感覚、生活感覚、価値観の違いを見出すことができるし、その背景となる自然環境や生活様式の類似点と相違点を見出すこともできる。互いの民族がそれぞれ異なる風土、文化、慣習の下で事物を使用したり接したりし、その捉え方が異なることの証明である。

付記：本研究は江蘇高校哲学社会科学基金指導項目 2014SJD347 の助成を受けたものである。

#### 注

- 1 銭清(2008)「日本語と中国語における「金銭」に関する諺対照比較研究 1」『ニダバ』西日本言語学会 37: 183-192 参照
- 2 銭清, 浮田三郎(2009)「日本語と中国語における「金銭」に関する諺対照比較研究 2」『ニダバ』西日本言語学会 38: 108-117 参照
- 3 銭清(2008)『日本語と中国語における「金銭」に関する諺対照比較研究』(広島大学大学院国際協力研究科 修士論文)の研究結果に基づく。
- 4 「王八」は、孝・弟・忠・信・礼・義・廉・恥の八徳を忘却した者のことで、とりわけ八番目の恥を忘れた恥知らずのことであり、はじめは「忘八」といったのが、同音の「王八」となったのだという。

#### 参考文献

- 温 端政(2004)『中国諺語大全』上海辞書出版社  
金子武雄(1983a)『日本のことわざ 評論』海燕書房  
尚学図書(1982)『故事俗信諺大辞典』小学館  
関本 至(1983)「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」『レトリックと文体』古田敬一(編)丸善株式会社 pp. 1-30  
張 一鵬(2004)『諺語大典』漢語大辞典出版社  
外山滋比古(1983)『日本の修辞学』みすず書房  
中村 明(1977)『比喩表現の理論と分類』東京 秀英出版